

息子とアレルギー

カメとかぜ。亀工房の風の感じ方です。知らないこと、気がついた事、伝えたい事読者の方にも尋ねてみたい。それがこの連載。強く主張するわけではなく、でも誰かに伝えたいような…。聞いてみたいような…。こういう場があったから伝えられるそんな連載です。

やたらと元気な我が息子ですが、現代病に悩まされている。アトピーとアレルギーだ。これが厄介で、また今増えているようなので伝えたいと思った。アレルギーなどは「昔は無かった」「神経を使いすぎだ」とはよく言われるが、そう軽そうに見えて大変なのがこの症状だ。特にアトピーは…。因みに、そういう子供を授かってわかった事だが、何かしてあげられる事は無いかと考えてしまうのは仕方がない。何もしなければ大変なのだ。また、アトピーが悪化した時の母親の顔と言ったらなんとも辛い。成果が出ないという事と継続して保湿しなければならないという点で、つね日ごろの子育てに加えられる。そして努力に反して悪化するからだ。

アトピーやアレルギーは、何が原因か本当にわからないものなのだろうか。なんで昔に無くて今増えているのにわからないのかが不思議でならない。私も無知で言っているのだから無責任なものですが。アトピーは皮脂が普通の人より少ないといわれる。体を守るべく油が分泌しにくいので皮膚が炎症を起こしてしまう。(たぶん) その油を出せるような体質になるような食生活、生活習慣、環境というものが存在するのならば、本当に知りたいそして多くのお悩みの家族に提案できたらナオいい。

2歳半のになる息子はもう自分が卵を食べられない事を知っている。なんでも興味を持ち、なんでも食べたくなる時期なんです。「これは卵が入っているから食べられないや」とタイ焼きやケーキ、クッキーを見るとそうやって手はつけない。でも食べたいのだろう、料理番組をみて自分も鍋を持ち出してそこにおもちゃのブロックを入れてかき混ぜる。「コショウを大さじ一杯入れて、卵入れて・・・」と息子の作る料理には毎回卵が登場する。気になっているのだ。本能のままに動く子供に、必要以上の我慢をさせることは本人には重荷だろう。理由じゃない。駄目だ！という事実。イライラが蓄積されるのだろう。そのストレスのやり場をつくってあげたいが、それには、家族のふれあいのだろうか。私は自然に連れ出す。のびのび走り回れるから。自然は大好きだ。因みに建築業だからだろうか・即効性のある自然⇨「庭」の必要性もとても感じる。二歳児でもゼリーが食べられなかったことや、怖いものをみた、パパに夜も会えなかった等は、とても記憶している。「ゼリーが食べたい！」「セイウチさんは怖いからやだ」「今日も帰ってこなかったね」こんな調子だ。そしてダムの水のように蓄積されていく。あふれないように、びのびさせたいけれどもだ。昔ならばそんな意識は無くても勝手にのびのびできる環境があった。今はその機会を作らなければいけない時代だと私は勝手に思っている。自然が自然にないのだから。だから、佐野のこどもの国とみかも山が私は好きだ。太田の金山もいいらしい。松田のキャンプ場は大人も楽しめるので友達とよく利用する。外に連れ出し、卵の存在を小さくしてあげることくらいはこの私でもできるだろう。

おわり

亀山けんぞう



亀工房

<http://www.kame-kobo.jp>

ココをクリック！

